

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2070501057		
法人名	宗教学人天理教飯田市分教会		
事業所名	グループホームいこいの里		
所在地	長野県飯田市羽場権現1611-2 (電話) 050-5561-1592		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年7月9日	評価確定日	平成19年8月22日

【情報提供票より】 (平成19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤	2人, 非常勤 9人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 ~ 0 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		500 円

(4) 利用者の概要 (7月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	2	要介護2	0		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健和会病院、波多野医院、JAみなみ信州歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「入居者も職員も互いに助け合って日々を送り、喜びに満ちたくらしをする」という理念を浸透させ、実践している。張りのある生活が出来るように、6名の入居者一人ひとりが役割を持って(調理、食事の後片付け、洗濯物干し、テーブルかけ、床掃除等)。ボランティアによる絵手紙の指導を受けており、季節の果物・花などが彩り豊かに描かれ、居間や居室の壁にはり出されていた。テーブルの上にも、入居者の押し花の作品が置かれるなど、季節感が充分に感じられる。月に2~3回入居者が中心となり、献立から調理、食事の準備をしている。職員は見守りながら必要に応じ、手伝いをしており、料理によっては味付けや調理の仕方を教えてもらう事もある。入居者は希望に添って入浴ができ、入居者が考えた薬草湯(ヨモギ湯、ドクダミ湯、ミカンの皮湯)の日もあるなど、工夫しながら入浴を楽しんでいる。少人数ならではの満ち足りた暮らしぶりを窺うことができた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善事項のうち、運営理念の明示については施設内への掲示はされていない。平易な文言でより具体的に表現されれば更に良いのではないだろうか。また、理念の啓発・広報については運営推進会議等を通じて徐々に地域に浸透されよう取組みがされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>自己評価は、全職員で行っている。評価から見出された課題に対し積極的に検討し改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>認知症の高齢者にも様々な立場の方々があり、様々な課題を抱えている。地域からの理解を得る場として、3ヶ月に一回定期的に運営推進会議を開催している。入居者のレベルの問題について、お年寄りの尊厳について、地域交流についてなどその都度議題をもうけて意見交換を行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、個別に健康状態、日頃の様子、金銭のこと等(場合によって排泄など)を便りにして家族に報告している。意見・要望・苦情の受入先・方法に関しては、利用開始時に家族に説明している。また、様式は作成してあるが、現在までに家族等からの意見・苦情等はでない。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人の代表者は組長として地区の役員をしており、自治会の配り物を入居者と一緒にもわるなど積極的に住民との交流を行っている。公民館活動への誘いもあるので、できるだけ参加するようにしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者も職員も互いに助け合って日々を送り、喜びに満ちたくらしをする」という理念を浸透させている。	○	「事業の目的」・「運営方針」等から理念が読み取れ、理解できる。やや、専門的な用語のように思われるので、平易な文言でより具体的に表現されたら良いのではないだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員は「ひのきしん（人として互いに尊重しあい助け合って暮らしてゆこう）」、「陽気暮らし(周囲の人々と互いに助け合いながら日々を送る)」を共有しその実践に共に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の代表者は組長として地区の役員をしており、自治会の配り物を入居者と一緒まわるなど積極的に住民との交流を行っている。公民館活動への誘いもあるので、できるだけ参加するようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で行っている。評価から見出された課題（残飯を減らすことを検討し、食事を食べ易くしたところ残飯を減らすことができた。また、衛生面の徹底、整理整頓などに関しても取り組みがあった。）に対し積極的に検討し改善に取り組んでいる。		

グループホームいこいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一回、定期的に運営推進会議を開催している。入居者のレベルの問題について、お年寄りの尊厳について、地域交流についてなどその都度議題をもうけて意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員も参加しており相談等もしている。認知症の高齢者にも様々な立場の方々がおり、様々な課題を抱えている。市の担当部署とも綿密に連絡を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、個別に健康状態、日頃の様子、金銭のこと等（場合によって排泄など）をお便りにして家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望・苦情の受入先・方法に関しては、利用開始時に家族に説明している。また、様式は作成してあるが、現在までに家族等からの意見・苦情等はでていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動について、入居者への配慮から伝えていない場合があるが、基本的には交代前の一ヵ月間は引継ぎ期間とし、入居者との馴染みの関係を保持し続けるよう努力している。	○	馴染みの職員の異動についてはケアの継続のためにも、引継ぎ期間を十分にとり、スムーズに移行できるよう配慮していただきたい。職員の異動に関しては、家族には伝えていただき、ご理解をいただくようにされたらどうか。

グループホームいこいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修がある。研修後ホーム内で報告し、全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの同業者と交流している。同業者との職員交流、また、入居者の交流を通してお互いの良いところを吸収しあっている。地域のグループホームネットワークにも参加予定である。	○	すでに地域のネットワークにも参加されるとの意向であるが、日々のサービスや職員育成にも役立つよう、第一線の職員の相互交流や連携を進めていただくことを望みます。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上で利用が始められるように体験入居を取り入れている。体験期間は1か月以上に及ぶこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員、入居者と意識せず一緒に生活をしている。仲間の関係作りに努めている。入居者から調理の仕方など教えてもらうことが多い。		

グループホームいこいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの生活歴をよく理解し、暮らし方の希望等の把握は一月に一回ミーティングを開き、個別に実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、職員の気づきや意見などが取り入れられて作成されている。毎月の職員会で介護計画は発表され検討が加えられている。入居者本位の介護計画となるよう作成し、実践に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、全入居者の介護計画は、全職員で見直しを行っている。また、状態や要望等に変化が生じた場合はその都度カンファレンスを行い現状に即した内容となるよう修正している。介護計画内容は、家族に説明され確認を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護支援センター、同法人内施設等と連携をとりながら利用者、家族の要望に応じている。		

グループホームいこいの里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月かかりつけの医師の往診があり、診療を受けている。体調を崩した時などはもちろんだが、何かあればいつでも24時間相談できる医療機関がある。専門医療機関（眼科・整形外科・歯科）に関しては、家族の意向に添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、同じ法人の運営する施設（高齢者賃貸住宅）への転居が可能であるが、その他の具体的な体制は出来ていない。現在は状態が悪化した場合には、かかりつけの医師とも相談したり、入居者、家族の意向に添っている。	○	重度化しても入居者や家族が安心してホームで生活できるように、また、日常の健康管理や急変時にも対応できるよう、ホームとしての統一した方針を定めたら良いのではないだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮しながら、誘導の声かけや言葉かけに留意している。個人情報保護について、全職員で学習している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は自分のペースで生活している。職員は、入居者のペースに合わせながら声かけしたり、手を貸している。		

グループホームいこいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2～3回入居者が中心となり、献立から調理、食事の準備をしている。職員は見守りながら必要に応じ、お手伝いしている。料理によっては味付けや調理の仕方を入居者から職員が教えてもらう事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に添って入浴ができる。また、入居者が考えた薬草湯（ヨモギ湯、ドクダミ湯、ミカンの皮湯）の日もあるなど、入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張りのある生活が出来るように、入居者一人ひとり役割を持っている（調理、食事の後片付け、洗濯物干し、テーブルかけ、床掃除等）。ボランティアによる絵手紙の指導を受けているが、季節の果物、花などが上手に描いてあり、壁に貼り出してあった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩の他に、季節毎に遠出（花見、ラン観賞）、また、近くの施設から誘いがあれば出かけて行事の催物を楽しむなど積極的にホームの外へ出かけている。家族と一緒に外出する入居者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵のかけない暮らしの大切さを認識している。		

グループホームいこいの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、防災訓練を行っている。入居者も参加し、避難を実際に体験してもらっている。	○	運営推進会議等で、災害時に地域の人達からの協力が得られるように働きかけをしていくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が一人ひとりのおおよその摂取量を把握している。栄養士が栄養バランスに留意した献立が作成されていた。入居者が食べやすいように調理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間から直接外に出られるガラス戸があり、開放的である。目の前に広がる庭には、花や草木があり、移り変わる季節を楽しむことができる。また、居間や居室の壁には、入居者が描いた絵手紙の花や果物、テーブルの上にも、入居者の押し花の作品が置かれるなど、季節感が充分に感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は12.28～18.73㎡と広い間取りとなっている。馴染みのタンス、ベッド、テレビ、時計の持ち込みや家族の写真が飾られていた。		

※  は、重点項目。